

地元の米と水、気候風土、蔵人が造る香り豊かな日本酒

「有限会社金水晶酒造店」は、福島市松川町に三代続く老舗の造り酒屋です。震災後、いち早く店舗建物を一新。さらに地域のために貢献したいと福島小売酒販組合が企画したオリジナルの日本酒造りに協力。風評被害の払拭に尽力しています。新酒の仕込みに入る前の酒造店を訪ねて、造り酒屋としての歴史、福島市を代表するオリジナル酒「福福龍神」の誕生秘話などを伺いました。



有限会社金水晶酒造店 代表取締役 齋藤 正一 さん

得し、本格的な酒造りが始まりました。社名の「金水晶」は、戦前、松川町に金鉱があったこと、近くに清らかな水がコンコンと湧き出る水晶沢があったことに由来するそうです。

◆ 地元のお神酒として親しまれてきた日本酒 ◆

徹底して地元にごこだわってきた酒造りは、地元の米と水、気候、風土、そして何よりも人を大切にしてきました。齋藤社長のモットーは「お客様に喜ばれる酒造り」。努力の甲斐あって地元の皆さんにとって、なくてはならないお神酒として親しまれています。

【※1】旅籠：近世、旅行者を宿泊させる食事付きの宿屋

◆ 明治維新後に免許を取得初代が始めた造り酒屋 ◆

福島市松川町は、かつて奥州街道の宿場町として栄えた町です。民家や商店が立ち並び旧国道4号の一角に建つ酒蔵「金水晶酒造店」も、かつては「蠟燭屋」という旅籠を営んでいました。「手紙は飛脚、交通手段は人力車、という時代の話ですよ」と語るのは、三代目の齋藤正一社長です。

「酒造りを始めたきっかけは、初代・金次郎が、汽車やバスが走る時代を生きる糧として始めたのがスタートです」。明治28年に濁酒の免許を取得。その後、清酒の免許を取



▶「福福龍神」。福島県産の酒米「五百万石」を使用した無ろ過純米生原酒。ラベルの龍は福島県の形を表す。



▶「仁王のわらじ」は、福島県の酒造好適米「夢の香」を使用



▲蔵をイメージした店舗。左の建物は旅籠時代の建物



▲利き酒をして意見を交換し合う蔵人の皆さん

だま 玉 杉

(右ページ上の写真)

殺菌作用がある杉の葉を、使った作られた杉玉。酒蔵の玄関に飾り、新酒の完成を知らせます。緑の葉がだんだん茶色に色づいてきたら、飲み頃の証です。